

日本防火 防災協会会長賞

ぜんこう めい しゅくめい つなみ ちようせん
全校3名 宿命(津波)に挑戦!
ただ れい せい おそ
～正しく、冷静に恐れよう Final～



▶設立年
昭和22年 5月

▶団体構成
10名(生徒3名、教職員7名)

▶所在地
〒786-0045
高知県高岡郡四万十町興津1604番地

▶連絡先
TEL 0880-29-5002
FAX 0880-25-0220
E-MAIL 410090@town.shimanto.lg.jp

▶取組開始年月
平成20年 6月～

し まん と ちようりつ おき つちゆうがっこう 四万十町立興津中学校

【団体概要】

「四万十町立興津中学校」は、「自ら学び 共に認め合う 心豊かでたくましい生徒の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指している。

本校は、令和2年度限りで74年の歴史に幕を下ろし、閉校となるが、生徒は明るく素直で、お互い切磋琢磨し、日々の学習や学校行事に取り組んでいる。

【背景】

本校の校区は、土佐湾(太平洋)に面しており、南海トラフ地震発生に伴う津波の襲来は宿命である。そのため、古くから地域・行政の方々と共に地震や津波対策に取り組んできた。本校の防災学習の合言葉は「興津全員逃げ切るぞ!」である。

令和元年度は、平成30年度に考案した「津波到達時間表示板」を広く定着させるため、地域の会合等に出向いて学習発表や防災だよりの全戸配布(全433戸に6か月連続)を行った。

「津波到達時間表示板」とは、南海トラフ地震が発生した場合、地震後に人間が自力で避難ができなくなるとされる30cmの津波が到達するまでの時間を、その場所ごとに「10分」、「15分」、「20分」、「25分」と表示して知らせるものである。これにより、津波は地震後すぐにやって来るとしている高齢者の方々に緊迫感だけでなく、心の余裕を与えられると考えた。

また、地域には東南アジア諸国から技能実習生として来日している方々がおり、日本語で表記された「津波到達時間表示板」では、理解できない人もいた。

そこで、外国から来た方々に地震や津波の恐ろしさを伝え、地震後はすぐに津波から逃げていただくために、「津波到達時間表示板」を外国語で補完する【多言語表記板】が必要であるという声が生徒から上がっていた。

【取組の内容】

【多言語表記板】に係る生徒の自発的な取組は主に次のとおりである。

- ① 掲載する言語を決めるために、地域に出向いて出身国を調査した。調査の結果、3か国語:ベトナム語、中国語、タガログ語(フィリピンの公用語)が決定し、さらに英語を加えた4か国語で表記することにした。
- ② 掲示板に4か国語をどのように配置するかを検討した。
- ③ 見やすく、分かりやすい色使いを学習した。
- ④ 掲示する文言の元となる日本語表記を考えた。外国語表記は、連携団体である京都大学防災研究所の皆さんにご協力をいただいた。

- ⑤ 文字ばかりに偏らないように、津波注意を促すJIS記号、高知県の防災キャラクター(つなみまん)、自作の絵などを載せることにした。
- ⑥ 津波が一目で分かる動画に繋がるQRコードの掲載を発案した。動画は著作権等を考慮し、京都大学防災研究所の皆さんに選定を依頼した。
- ⑦ 地域に出向いて掲示に適した場所を探した。
- ⑧【多言語表記板】の掲示をお知らせする「防災だよりの」を令和2年10月に全戸配布した。

【成果】

生徒たちは、小学校の時から地震・津波対策について学習し、中学校に入学する。小学校からの円滑な接続により、学年を経ることに防災意識が高まっている。

本校のこれまでの活動は、多くの方々の支えをいただき発展してきた。特に、平成30年度の取組はメディアにも大きく取り上げられ、生徒たちは地域の防災活動の一翼を担う責任と自信を受け継いできた。

令和2年度当初には、生徒から「外国からの方も含め、地域全員が津波から逃げ切れるようにしたい。」「津波到達時間表示板や多言語表記板を正しく理解してほしい。」といった願いが出されていた。

【多言語表記板】がほぼ完成した時点で、ベトナムとフィリピンからの技能実習生の方々からいただいた感想や意見を元に修正を加える活動では、「分かりやすい表示板だ。」「津波の怖さが分かった。」「地震後はすぐに避難する。」などの感想をいただいた。肯定的な感想をいただいたことで、生徒たちはこれまでの取組に達成感を感じている。

【多言語表記板】の実際の掲示活動では、新型コロナウイルス感染防止の観点から地域の方々と活動を断念し、学校だけの掲示となったが、掲示した表記板を見た方々から「既設の津波到達時間表示板との併設で表示板の機能が向上した。」などの感想をいただいている。

【多言語表記板】を掲示することにより、外国から来た方々が地震・津波を正しく冷静に恐れ、積極的に避難することを願っている。

また、本校の一連の活動は、興津地区自主防災組織の活動の一つとして位置付けられているため、活動の反省会でも出される意見等を次年度に活かすようにしている。地域と共に歩む本校の防災活動にとって、この検証の場は必要不可欠である。

さらに、令和2年度は、阪神・淡路大震災と東日本大震災に由来するヒマワリの種を入手し、学校敷地の道路沿いに植えた。夏には、約150本のヒマワリが開花し、地域の方々に喜んでいただいた。こうした取組を通じ、命のつながりと尊さを学ぶこともできた。

土佐湾上空から見た興津地域



「津波到達時間表示板」の広報活動



平成30年度に作成した「津波到達時間表示板」



「多言語表記板」の掲示活動



選定委員 Comment

四万十町の興津中学校は興津小学校とともに、学校と生徒が一体となって地域防災に取り組んできた長い歴史を持つ。この数年間の取り組みを見ると、南海地震の体験談を聞き取って冊子にする、地域の各戸を訪問して家具転倒防止を呼びかける、小学生と一緒に合同訓練をするといった取り組みを、多面的かつ持続的に展開している。それまで、防災に消極的だった地域の方が、中学生の取り組みが刺激になって、積極的に防災に取り組むようになっていく。

この興津中学生がとりわけ力を入れて取り組んでいるのが、「津波到達時間表示板」と「多言語表記板」の作成とその掲示である。「津波到達時間表示板」は、いつ津波が来るかを地域の人々に教えて、全員が避難できるようにするものである。「多言語表記板」は、海外からの技能実習生に、英語、中国語、タガログ語(フィリピンの公用語)、ベトナム語で津波の危険性を教えて、避難できるようにするものである。自分たちのためだけでなく地域全員のことを考えての取り組みで、評価できる。

この興津中学校が今年度で74年の歴史に幕を下ろし閉校になる。いままで地域の人々に向けて発信されてきた「興津全員逃げ切るぞ!」新聞の最終号のタイトルは、「全校3名、宿命(津波)に挑戦!」となっている。その紙面から最後の3人の生徒の防災への熱い思いが感じられる。長期にわたる素晴らしい防災学習の取り組みに対して、心から敬意と感謝の気持ちを捧げたい。